2014.5.24　推進団体交流会「災害と男女共同参画」ワークショップ

避難所の運営

リーダー
① 推進団体のリーダー
② 自治会の会長 or 役員
防災役員

部屋割り
・地区 → 世代で分ける
(リーダを作る)
コミニュケーションの為
安心
乳幼児
妊産婦 → 優先
(タタミの部屋など)

・医療チーム → 医師 看護士 ヘルパー
(保健士)

・食料チーム → 調達と配食
②

自分たちができること

・炊きだし (男の料理教室)
・子どものケア (おおきなかぶ)
・高齢者のケア (フラワーアレンジメントの会)
・心のケア (ハート to ハンドメイドの会)
・障がい者のケア (ほめたいね♡)

男女、国籍関係なく、みんなが楽になる様ケアする。

復興に向けて

駒水 (おおきなかぶ)
竹田 (男の料理教室 土曜会)
長森 (フラワーアレンジメントの会)
米田 (ほめたいね♡)
小川 (ハート to ハンドメイドの会)

避難所の運営

リーダー決め
男性 1人
女性 1人
} 呼びかけ
(事前に決めておく)
候補 推進団体の中で毎年予め決めておく

情報共有の仕方
ピラミッド型 → top の連絡先
掲示板の管理者
事務局の設置
} 皆に伝える

部屋割り
安全安心な場所 →
乳幼児
妊産婦
障がい者

自分たちができること

直フォークラブ：男性が多いので人助け、力仕事
(記録？)
どんどん助ける！

子育て支援サークル：子守り
(Pamojaのマミークリスタルキッズボード)
お母さん支援 → 安心 → 復興につながる
場所の提供
声掛け

カタリバカフェ：知恵を出し合う → 相談にのる

復興に向けて

避難所の運営

行政
男性リーダー
女性リーダー
職業(資格)の把握
力仕事
情報収集
治安維持
そうさく
乳幼児
妊産婦
障がい者
高齢者
外国人
の ケア

プライバシースペースの確保
・少しの時間でも1人になれる空間
・乳幼児の為の部屋
・要介護者の為の部屋

自分たちができること

仲間作り
ストレッチ等
ストレス解消
人のネットワークを使って全国に呼びかける
思春期の心のケア
子供の遊ぶ場の提供
ママの支え
たき出し
洗たく

復興に向けて

男女どちらの意見もとりいれられた社会の実現

避難所の運営

① 地域で集まる
② 家族単位に集まる。

④ 連絡もうを作る 整理する
(番号と)

自分たちができること

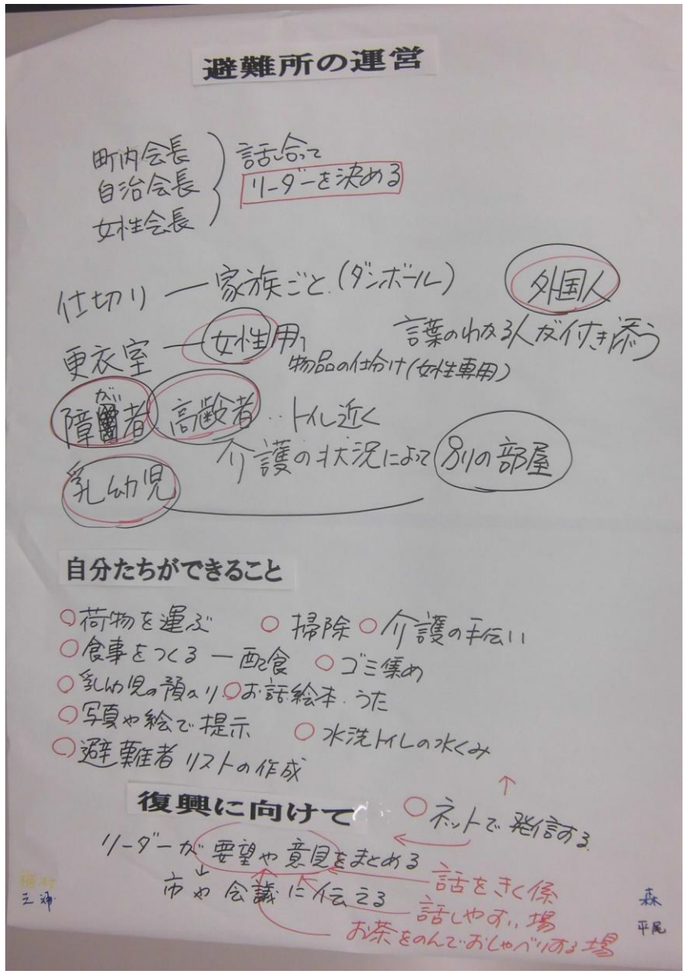
① 読み聞かせをしてあげる
② ストレッチ、体操で身体を動かす
③ 現場の写真を…… 後々の為に記録。
④ 絵手紙で元気づける

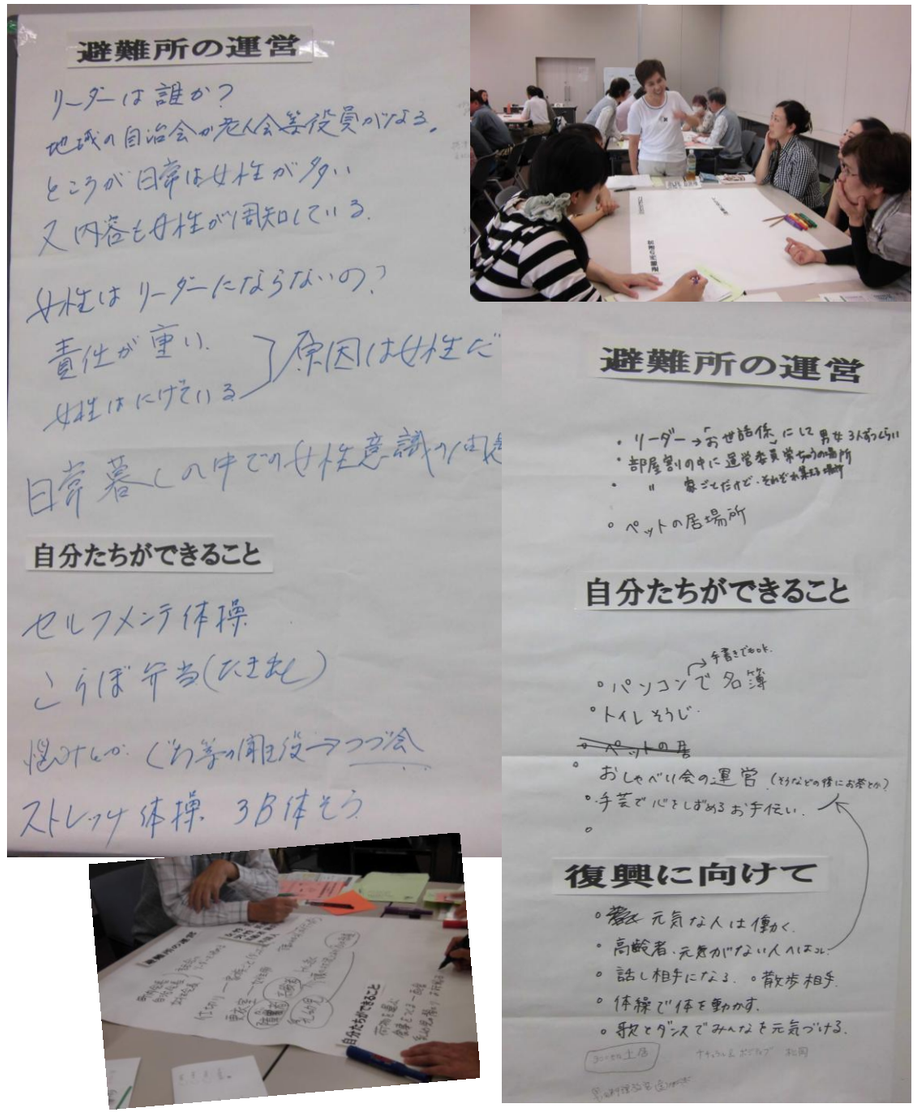
復興に向けて

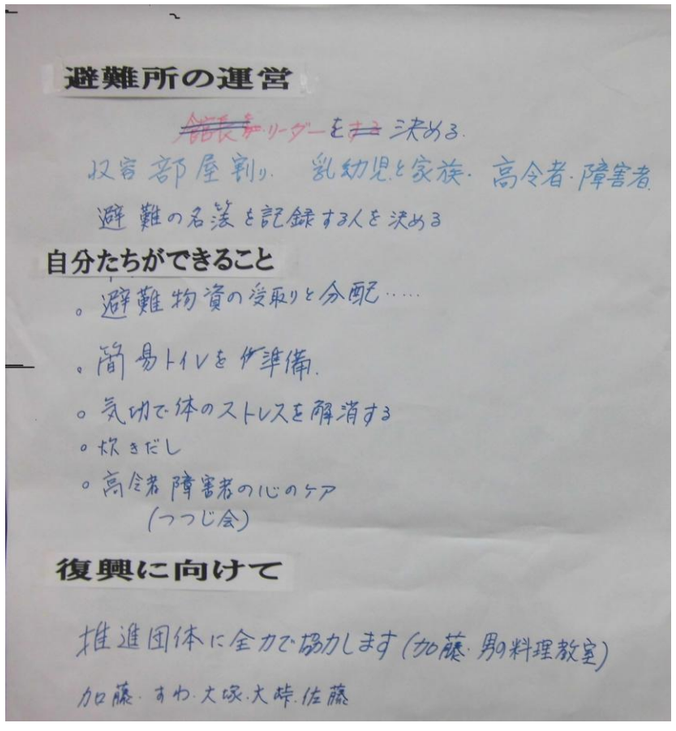
① 皆さんで、元気になれる様なイベントを考えてみる
② 心のケアを……

女性 乳幼児
男性 妊産婦
高齢者 障がい者
外国人

子供スペース







□ワークショップを通して感じたこと、考えたこと

（アンケートより抜粋）

・自分では思いつかない目線のお話が聞けて、勉強になった
・改めて震災時の困難な状況を思い描く機会となった
・ワークを通して一緒に考えることで、他団体の方との交流が出来た
・震災から時間がたち、災害に対する恐怖心や心構えが薄れていることを実感した
・一人で考えるのは難しいけれど、何人かで考えてみるといろいろな意見がでるものですね
・いろいろな年代の方とシェアできたことがとても勉強になった。時間が全体的にきつかったように思う。説明が少しわかりづらいところがあった
・みんなの意見を聞いて実行していくことが、リーダーとして大切なことだと思った
・震災が起こったとき、子どものことだけでいっぱいになりそうだけど、女性として逃げることなく、自分の役割を考えて責任を果たしたいと思った
・さまざまな活動を通して、顔見知りになっていくことで、災害時にも活かすことができると思う
・実際にリーダーを決め、避難所の運営をする時に、顔の見える関係性であるか、お互いを知ることが大事になる
・防災について女性が積極的に関わり、声を上げていくべきだと思うので、気づいたことを云える場があればと思うし、継続して考える機会があればいいと思う
・災害時にみんなが尊重される生活に戻れるような避難所の運営をまとめるのはとても難しいと再認識した。自分とは立場や状況が違う人を理解することの大切さ、いろんな視点をもつ大切さを考えさせられた
・みんなが自分の意見が正しいと思って発言した時に、円滑に話を進めるスキルをもった人が必要だと感じた

□震災からの復興に向けて、団体として、また、個人としてできること（アンケートより抜粋）

・乳幼児の預かりや子どもにお話しや絵本、歌などを届ける活動
・おしゃべり会をしてみんなで元気をとりもどすこと
・フラワーアレンジメントを通して子育てママ同士の交流を深める活動をしているので、避難しているママを誘って仲間づくりをしていきたい
・子育て中なので子どものケアを考えたい。地区のコミュニティを大事にしていきたい
・趣味でやってきたことで、人に喜んでもらうことができればうれしい
・学んだことを活かして障がい者のケアができればいいな
・団体のブログやフェイスブックを通し全国に向けて、援助のお願いや被災地の状況報告ができる
・料理教室で学んだことを活かして炊き出しのお手伝いをする
・子どもさん、お母さん、お父さんの支えになるよう、協力をしたい
・話し相手や散歩、体操など団体で取り組むことがあると思う
・小さな子どもさんのいるお母さんたちとからだを動かして、気持ちをスッキリさせるお手伝いができるかも
・手作りを通して心の復興のお手伝いができると思った